

# 親子で体カアップ(笑) 大運動会



荒川区体育協会会長 高田 忠則

7月31日(日)、荒川総合スポーツセンターにおいて「親子で体カアップ(笑) 運動会」を開催しました。これは荒川区体育協会が、区民に運動する機会を増やすきっかけを作るために企画したものです。

このイベントは2007年から始まりました。競技団体を中心にゲームで遊ぶ内容でしたが、吉本興業とのつながりをきっかけに、2017年から「笑う運動会」と称し、ただスポーツを楽しむだけでなく、お笑い芸人の方と交流しながら、一緒にスポーツを行うさらなる楽しみを加えました。

今回は、二部制にして参加人数を抑え、感染症対策を行いながら、3年ぶりの開催となりました。一番盛り上がったのは出た目で勝負。サイコロの出た目の数により、回ってくるコーン距離が変わり、白熱したレースになりました。また、全員リレーでは転倒や、コーナーでのスピードダウンなどもあり、かなりのデットヒートが繰り返されました。プロの芸人の方が参加することで、会場は大いに盛り上がり、笑いの溢れた楽しい運動会になりました。

今後も、皆様が喜ぶ企画を考え、区民の皆さんがスポーツをするきっかけを増やしていきたいと思えます。



リレーの様子

## アンケート

アンケートにお答えください。抽選で30名の方に「あらかわの心」オリジナルノート&定規セットをプレゼント致します。郵送又は電子申請によりご応募ください。

### ● 郵送の場合

はがきに、1.住所 2.氏名 3.電話番号 4.アンケート①②③④ をご記入の上、本ページ左下宛先を切り取り、はがき宛先面に貼り付け、お送りください。

### ● 電子申請の場合

こちらのQRコードを読み込み、応募画面にお進みください。



### ● 締め切り

令和4年12月15日。当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

なお、いただいたご意見等は、ニュース等の広報誌で紹介させていただくことがありますので、ご了承ください。

## 「あらかわの心」カルタのご紹介

みなさんは「あらかわの心」カルタをご存知ですか？  
このカルタの読み札は、あいさつ・きまり・思いやり・体験・見守りの心をつなぐ5つの取り組みを表現した内容になっており、大人も子どもも楽しみながら、「あらかわの心」について一緒に考えていただけるカルタです。カルタは荒川区役所2階の児童青少年課窓口で販売しています。(一組500円)



### ● アンケート

- ①「あらかわの心」ニュース第33号のなかで、もっとも興味・関心をもった記事は何ですか。
- ②以前から「あらかわの心」運動を知っていましたか。
- ③「あらかわの心」運動を何で知りましたか。
- ④「あらかわの心」運動へのご意見・ご感想を教えてください。

### オリジナルノート&定規セット



# 「あらかわの心」ニュース



「あらかわの心」推進運動シンボルマーク

今号では、参加団体の活動報告を中心にお届けします。いずれの団体も感染症対策を徹底し、様々な工夫をしながら、活動を再開しています。



あらかわ ばん あらかわ み

第33号

令和4年  
10月3日発行

## 「あらかわの心」推進運動とは？

荒川区には、郷土と地域を愛し、人を思いやる温かくやさしい心が受け継がれてきました。

「あらかわの心」推進運動は、この「あらかわの心」を、次代を担う子どもに受け継いでいくため、

- まず大人が行動する
- 大人と子どもと一緒に行動する
- 地域ぐるみで子どもを見守り育てる

という3つの視点に基づき、

- 笑顔であいさつをしよう
- きまりを守ろう
- 思いやりをもとう
- いろいろな体験をしよう
- 見守り、声をかけよう

という心をつなぐ5つの取り組みを実践することで、大人も子どもも互いに尊重し、共に生きる地域社会の実現を目指す運動です。

## 「自然まるかじり体験塾」

荒川区青少年育成地区委員会連絡協議会

令和4年8月29日に「第36回自然まるかじり体験塾」を実施しました。

今回は小学校4年生から6年生までの児童が、千葉県鴨川市の大山千枚田で日帰り農業体験を行いました。

稲刈り体験では、農家の皆さんから指導を受けながら、慎重に鎌を扱い、力を入れて稲を刈りました。刈り取った稲を天日干しにする「は

さかけ」作業まで、皆で協力しながら収穫を終わらせることが出来ました。毎日食べているお米の収穫作業を体験することによって、食べ物のありがたさ・大切さを学びました。

藍染体験では、棚田で育てた藍の葉を煮出す作業から始まり、作業を分担しながら染液を作りました。絞り方によってさまざまな模様のきれいな藍色のハンカチが出来上がりました。

今後も、「あらかわの心」5つの取り組みの一つ、「体験」の場を提供することを通じて、青少年健全育成に努めていきます。



稲刈りの様子



「はさかけ」の様子



きれいに染まったハンカチ



〒116-8501  
東京都荒川区荒川2-2-3  
荒川区子ども家庭部児童青少年課内  
あらかわの心ニュースアンケート係

第33号 令和4年10月3日発行  
発行 「あらかわの心」推進運動区民委員会事務局  
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3  
(荒川区子ども家庭部児童青少年課内)  
TEL. 03-3802-3111 (内線3833)  
FAX. 03-3802-3174

<Eメール> arakoko@city.arakawa.tokyo.jp  
<ホームページ>  
右記QRコードから、「あらかわの心」推進運動のホームページにとぶことができます。







## 地区委員会の諸活動におけるデジタル化推進

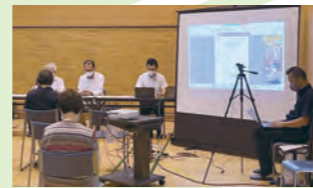
青少年育成南千住地区委員会 副会長 八坂 貴宏

コロナ禍で様々な活動が見直されるなか、青少年育成南千住地区委員会では、委員会活動の利便性の向上や諸活動の見える化を図ることで、より参加しやすい魅力溢れた委員会活動へと発展させることを目的に、デジタル化を推進しています。

具体的には、「ホームページの新規開設」「Zoomを活用した会議」「LINEを活用した会議案内と出欠管理」を行なっております。

ホームページでは、各種イベント案内など情報発信を行うほか、委員向けに会議日程や各種会議資料を提供することで、情報の見える化や会議のペーパーレス化にも取り組んでいます。

今後は、「なかよしまつりのステージライブ配信」等、地区委員会の活動内容をより具体的に理解してもらい、参加しやすくするように、ライブ配信なども対応していく予定です。子どもたちの笑顔をもっと増やし、そのことで大人も元気になり、地域も良くなるWin-Win-Winの活動を積極的に展開していきます。



会議の様子



## ファミリー共育講座

青少年育成尾久地区委員会 副会長 榊 真理子

7月2日(土)、尾久八幡中学校においてファミリー共育講座を開催しました。例年、尾久地区小中学校10校が輪番で担当校となり実施していますが、コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となりました。

はじめに「尾久地区の子どもたちの現況」と題し、尾久警察署生活安全課少年係長 齋藤政司氏にご講演をいただきました。「未成年者を特殊詐欺への加担と薬物乱用から守りたい」と感想が寄せられました。

次に「未来を担う子どもたちの健全な成長を願って～今、私たちにできること～」と題し、東京未来大学特任教授で、区内小学校で校長を歴任された長谷川かほる先生にご講演をいただきました。先生自身の経験談など等身大のお話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。「子どもの気持ちに共感、今日から実践できるようにしたい」と感想が寄せられました。

今後も、保護者の皆さんが、安心して子育てや家庭教育ができるように資する講演会を開催していく予定です。



講座の様子

## コロナ禍だからこそ大切にしてきたこと

子ども村ホッとステーション 相庭 貴行

一般社団法人「子ども村ホッとステーション」では、小中高生世代の子どもを軸とした「ソーシャルファミリー」として、多世代の居場所づくりを町屋で行っています。木曜夕方の「中高生ホッとステーション」を始め、今年から始めた「放課後クラブ」など、現在活動の幅を広げています。

今年6月、「中高生ホッとステーション」で全員一緒に夕食を再開しました。コロナ禍での再開は容易ではないですが、ボランティア全員で議論を重ねて実現しました。食事の時間と空間を共有し、配膳や片づけを子どもを含め全員で行うことで、子どもたちも周りの人から頼りにされる機会ができ、とても嬉しそうにしている姿を目にすることができました。

「コロナ禍だから夕食の再開はできない」ままだったら、孤立していた子がホッとステーションで友だちができることもなかったはずです。子どもの「必要」が満たされづらいコロナ禍だからこそ、子どもが何を必要としているかをボランティア全員で考え、この活動を継続しています。



夕食の様子

## 荒川地区街頭パレード

青少年育成荒川地区委員会 会長 安部 義治

6月26日(日)、第72回“社会を明るくする運動”荒川地区街頭パレードが行われました。当日は青空が広がり気温上昇が予想されたので、開会の挨拶は短めに、参加者全員に冷たい飲み物を配る等、熱中症対策を万全に行ったうえで荒川区役所を出発しました。

コロナ禍により3年ぶりの活動となり、参加団体を前回よりも少なく、感染症対策として各団体の参加人数を半分に制限させていただきました。このような環境下ではありましたが、峡田小マーチングバンドは保護者や学校の先生の応援もあり、パレードを盛り立てる演奏をしてくれました。

“社会を明るくする運動”は犯罪や非行を防止し、罪を犯した人や非行をした少年の更生を支え「いきいき」とした明るい地域づくりを参画する活動で、「あらかわの心」推進運動と連携を図っています。これからも地域の皆さんに周知し、理解を深めてもらえるような活動となるよう取り組んでいきます。



パレードの様子

## 尾久地区街頭パレード

青少年育成尾久地区委員会 小熊 賢一

6月12日(日)、天候にも恵まれ3年ぶりに、第72回“社会を明るくする運動”尾久地区街頭パレードが行われました。

今回は、尾久小学校から第七中学校までの約1.2キロの道のりです。開催にあたり2回の推進委員会を経て、熱中症や感染症対策も考え、参加者や梯団数も減らし、安全に開催できるよう努めました。

当日は、各町会、構成団体をはじめ、地域の小中学校、地域団体を合わせて850名程の参加がありました。安全のため尾久警察署員の皆様のご協力のもと、パレードが始まりました。各梯団の先頭と後方には、小中学校のブラスバンドの演奏があり、沿道の皆さんや参加者を、とても晴れやかな気持ちにしてくれました。

ご協力頂きました各団体や参加者の皆さまに感謝すると共に、久しぶりの開催となった街頭パレードは、参加者の笑顔が印象に残るパレードとなりました。



パレードの様子

## 町屋地区社明いきいきフェスタ

青少年育成町屋地区委員会 加藤 徳美

令和4年8月20日(土)、“社会を明るくする運動”町屋地区「社明いきいきフェスタ」をムーブ町屋にて開催致しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、3年ぶりの開催となりましたが、感染症対策を徹底し、約200名が参加してくださいました。

第一部は更生保護法人日新協会施設長 上原憲太郎氏に講演して頂きました。荒川区内にある更生保護施設の概要や改善教育、地域に根差すこれからの更生保護施設として、相談窓口や訪問支援の紹介もありました。とても興味深い内容で、参加者は熱心に耳を傾けていました。

第二部は、音楽ボランティア管弦楽団「アンサンブル荒川」の皆さんによるミニコンサートでした。参加者はゆったりと音楽に浸り、皆で音楽の素晴らしさを共有する楽しいひとときを過ごすことができました。

終了後、満面の笑みで帰る参加者の姿に、主催者側として開催出来た喜びでいっぱいになりました。



ミニコンサートの様子